

心欲大奇

江海大奇



## 怪獣たちのいるところ

---

怪獣たちのいるところ

日向に輝く砂の中

真白に光る海の底

きらきら光る森の奥

怪獣たちのいるところ

錆びた剣をさしたあと

かびた髑髏の鼻の裏

しけたネズミの巣の後ろ

怪獣たちのいるところ

餓えた男が腹の下

叫んだ女と口のつば

悩む子供にかみまわす

すべての不幸

すべての不興

すべてに嫌われ

すべてを憎む

怪獣達の好きなもの

沼の奥から生えたハナ

ゴミの中から飛んだトリ

奴隷から生まれたコドモ

ハス

ハト

ヨセフ

## ゆきまどう

---

快樂に冷めた愛  
快樂は付きまとう  
幾度も幾度も  
繰り返されては  
心臓を破り  
心をちぎっても  
繰り返される  
覆い隠しても  
つもりつもって日の目を見る  
濃んでつもった劣情も  
吐息と共に吹き荒れる  
その体がはげぬ限り  
血の通う限り  
果てしなく密告を繰り返す  
その袂を求める限り

## 緋文字

---

腐らず乾いたイチジクを懐に詰め  
思わず突ったわが子を抱き留め  
キメル口トトと歩き始める  
餓えた船は  
砂場から逃れ  
不愉快を断つ  
塩は帆を焼き  
光は目を焦がす  
月が彼女を見飽きたころ  
彼女は指を噛み  
赤い乳を与える

砂で足を削るころ  
あれほど耳を悩ませた  
さざ波を懐かしくなるとは  
この時は思わず

## 飽きた女神

---

彼岸を過ぎたころ  
夏に飽いた秋が  
森を片づけ  
虫をしまう  
無駄な緑を回収し  
命に見切りをつける  
慌てふためく生き物は  
生を変え、命を残し  
それでも拒むものは  
秋に見つからぬよう身をひそめる  
夏をあきらめない虫の中には  
歌でひきつけようと  
夜な夜な夏を呼ぶが  
熊でさえ白におびえ身をひそめる  
夏が最後の土産に  
残した秋に舌鼓をうち  
やがて来る死に  
あきらめを伝える

## 赤から青

---

毛が裂けるほどの怒りを  
木目に叩き付け  
眼のふちに残る夢の跡を  
胃の腑をくべる糧にする  
いきどおりに飽きたころに  
すべてを呪った切り口は  
すぐに見える位置に  
塩辛く染め上げた赤が  
思わず開いた瞼の裏を  
挟まった青がこぼれ出て  
頬を通り顎から落ち  
追いかけたつま先にあたる  
鉄の擦り傷が  
冷めた青と共に  
したたり、再びほほへ

## 怪獣達のいるところ 他4篇

<http://p.booklog.jp/book/44454>

著者：トンプソン

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/sikibu1113/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/44454>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/44454>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ